

第1回検討会での委員意見と段階別整理

第1回検討会における委員意見の概要

1. 受験前（実務経験を積む期間）に関する意見
 - ・会社において、個人の工事経歴をどのように記録・管理するかについて検討が必要。
2. 受験申請・審査時に関する意見
 - ・受験者が実務経験の算定方法を理解できていないので、しっかりとした周知・徹底が重要。
 - ・技術者制度における実務経験の位置づけが重要であることを踏まえた検討が必要。
 - ・実務経験の証明のためのシステム構築や既存データベースの活用について検討してはどうか。
3. 受験後に関する意見
 - ・ペナルティによる抑止策について、受験者及び企業のそれぞれを対象に検討が必要ではないか。
 - ・意図的な不正の場合及び過失の場合のそれぞれにおける原因に対応した対策の検討が必要。
 - ・実務経験の記録・管理について、査察等でチェックする対応があり得るのではないか。
4. その他制度全般について
 - ・受験要件としての実務経験の期間のあり方についても検討が必要ではないか。
 - ・施工技術の進展も踏まえた実務経験の取り扱いについても今後は検討が必要ではないか。

※ 青色：認識不足、ミスの防止策

※ 赤着色：不正の抑制策

	① 受検前（実務経験を積む時期）	② 受検申請・審査時	③ 受検時	④ 受検後
A 証明者 (企業)	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員の実務経験を適切に管理していない <p>◇ 会社において、個人の工事経歴をどのように記録・管理するかについて検討が必要。</p> <p>a：実務経験の確認方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 受検者の実務経験を確認できる仕組みがない <p>◇ (旧所属も含め) 実務経験の確認のあり方及びそれをチェックする方法の検討が必要ではないか。</p> <p>b：旧所属分の確認方法</p> <p>◇ 実務経験の証明のためのシステム構築や既存データベースの活用について検討してはどうか。</p> <p>f：既存DBの活用</p>		<p>◇ ペナルティによる抑止策について、受検者及び企業のそれぞれを対象に検討が必要ではないか。</p> <p>i：ペナルティのあり方</p> <p>◇ 実務経験の記録・管理について、査察等でチェックする対応があり得るのではないか。</p> <p>e：立入検査</p>
B 受検者 (個人)		<ul style="list-style-type: none"> ● 実務経験の算定方法への理解が不十分である <p>◇ 受検者が実務経験の算定方法を理解できていないので、しっかりとした周知・徹底が重要。</p> <p>c：チェックリストの提出</p> <p>d：手引きの記載内容の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対策本の模範解答の勉強で解答できている <p>◇ 現場経験をより確認できる試験問題・方法のあり方の検討が必要ではないか。</p> <p>h：試験問題の見直し</p>	
C 審査者 (試験機関)		<ul style="list-style-type: none"> ● 受検申請～合格発表までに詳細な審査は難しい（複数試験の1・2級試験あり） <p>◇ 効率的かつ着実な審査事務につながる受検申請方法のあり方の検討が必要ではないか。</p> <p>g：電子申請による合理化</p>		
D 全体（制度等 への意見）	<p>◇ 受験要件としての実務経験の期間のあり方についても検討が必要ではないか。</p> <p>◇ 施工技術の進展も踏まえた実務経験の取り扱いについても今後は検討が必要ではないか。</p> <p>⇒ 技術者制度のあり方関連</p>	<p>◇ 技術者制度における実務経験の位置づけが重要であることを踏まえた検討が必要。</p> <p>◇ 海外での実務経験は、どのように評価されているのか。</p> <p>⇒ 今年度から個別認定開始</p>	<p>◇ 意図的な不正の場合及び過失の場合のそれぞれにおける原因に対応した対策の検討が必要。</p>	